

青少年の健全育成と「梅波冴^{つばさ}」の活動支援



【梅森坂学区】

■世帯数：2,013 世帯

■人 口：4,503 人

■面 積：0.659 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 青少年の地域における居場所づくりとして、にっぽんど真ん中祭りに参加するための踊りチーム「梅波冴（つばさ）」を結成した。
- ・ 8月の祭り出演を目指して、梅森坂小学校体育館で週2回の練習を重ね、学区の夏まつりやコミセンまつりなどの各種行事や各地のイベントにも出演している。

【住民へのPR方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

名東区で唯一9年連続して平成16年からにっぽんど真ん中祭りに参加している。子どもが少ない学区にもかかわらず青少年健全育成のために頑張っている。

2 きっかけ、背景

青少年の居場所づくりのために学区でよさこいの練習を始めた頃、にっぽんど真ん中祭りに出場するチームづくりをしてほしいと、愛知県警からの要請を受けたことがきっかけとなっている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員 約5人

(2) 他団体との協力

他のよさこいチーム、名東警察署

(3) 運営協力

小・中学校に呼びかけて、子どもたちの梅波冴への参加を募っている。

4 実施のスケジュール

H16年2月 名東警察署からの要請を受けてチーム結成

8月 学区の盆踊り大会において踊りを披露
にっぽんど真ん中祭りに参加

H20年5月 名東の日「高針村ふるさとまつり」に参加

以降、にっぽんど真ん中祭り、学区の行事及び県内外のイベントに参加



5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 目標に向かって皆で頑張った結果の達成感を体験できる。
- ・ 地域の大人と子どもたちが親しくなれ、OBの子を含め、日常的に世話焼き活動を深めることができる。

(2) 苦労した点

- ・ 住民の理解を得ることと、活動の担い手の確保に苦労した。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 活動の継続と担い手の世代交代、活動資金の確保が今後の課題である。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・ ど真ん中祭りに参加するためには、多くの資金と労力が必要となる。チームを維持するためには、担当者の日常の努力が大変である。